

Close-up Interview (4月号 表紙の顔)

大嶋 有香

YUKA OSHIMA

「プロボウラーである今しかできないことを、もういいやと思うようになるまで頑張りたい」

東京体育館にプロボウリング史上空前の7000人大観衆を集めて開催された「KUWATA CUP2022→2023～みんなのボウリング大会～」決勝大会。その“夢舞台”の大トリで、2018年「JLBCプリンスカップ」での初勝利以来となる2勝目を挙げた大嶋プロ。準決勝から1カ月間隔が空いた変則日程と、特設レーンの難コンディションを克服してつかんだ待望の勝利が彼女にもたらしたものは——!?

(PHOTO: 保高幸子)



▲KUWATA CUP決勝大会前、大嶋は元プロボクサーの叔父が営むスポーツジムでフィジカルの強化に努めたという。「楽しくトレーニングすることを念頭に、キックボクシングなどの指導もしてもらいました(笑)」

体を鍛えれば心も強くなる?

終わってみれば、予選時から一度もトップの座を譲ることのない“完全優勝”だった。準決勝までのアベレージは232.00。以前からひとたびハマったときの爆発力には定評があったが、昨シーズンの年間アベを25点以上も上回るスコアは驚異的。それだけに決勝大会までの1カ月間は長く、もどかしく感じただろうが、大嶋は「いい緊張感を保っていた」という。

「どうしたら優勝できるのか、過去を見つめ直してたどり着いたのが『トレーニング不足で、大会の終盤には体が動かなくなっていた』という反省点。なのでこの1カ月は、投げ込みではなく筋力や体幹を鍛えるトレーニングを中心にやっていました」

い。自分はメンタルが弱いので、体を鍛えれば心も強くなるんじゃないか?とあって、叔父の指導を受けることにしました」

「本当は運動嫌い」という大嶋をトレーニングに駆り立てたのは、本人はもとより、心から優勝を願う周囲の声だった。

「今年に入って出会ったある人に『3位とか4位はもういい。一番(優勝)にこだわってほしい』と言われたんです。これまでの私は『入賞すればポイントも付くし賞金も入る。あとはボーナスみたいなもので、マッチゲームの勝負は時の運もあるし...』と、どこかフワとした気分で決勝に臨んでいたけれど(苦笑)、今回は最後まで一番を目指すという気持ちを切らさずに投げることができました」

4大会でひとケタ入賞を果たし、うち1回はジャパンオープンでの準Vと、その“予兆”ともいえる好成績を残している。年間ランキングも初のひとケタ9位にまでアップした。

昨年6月には経営母体が代わったトミコシ高島平ボウルの所属を離れ、フリーに転じた。大嶋の成績が上向いたのはそれ以降のことだ。

「経営者が代わっても契約内容は変わらなかったのですが、祖父が病気で倒れて、自分もいろいろ家の手伝いをしなければならなくなり、仕事の休みを多くしたいという点で条件が折り合いませんでした。後ろ盾がなくなったことは当然プレッシャーになったし、家庭の事情もあって自分がより頑張らなければいけないという気持ちにもなったけれど、フリーになって自分の思いどおりに活動できたことが好結果につながったのは幸いでした。ここまで導いてくださった人たちには感謝しています」

結果がついてくれば自信もつき、さらに上を目指して己を律するようになる。

「これまでは『明日がある』と思って生きてきたけれど、最近トシをとってきて(笑)、目の前の一日一日がどれだけ大切か、一日をムダに過ごすことでどれだけ損をしてきたかと考えて、計画性を持って行動するようになりました。プロボウラーとしても、ひとりの大人としても少しは成長できているんじゃないかと思えます(笑)」

そういえば、かつては「普通の女の子の生活」への憧れを口にしていた大嶋だが、今はどうなのだろうか?

「最近は常に『ボウリングのために生きている』という実感があって、こういう生き方が自分



▲取材日に朝から降りしきっていた雨が撮影時にはつかの間止んで、傘なしでのロケ撮が可能に。お天道様も大嶋に味方した!? (3月23日、埼玉スタジアム線鳩ヶ谷駅前)

も“一番”にこだわって、どうしたら優勝できるかということだけを考えて過ごしていきたい。自分でできることを最大限やって、最後に3冠王になれていたらうれしいですね(笑)」

同期には、年下ながらすでに優勝5回の坂本かやがいる。

「かやちゃんは本当に努力家で、ボウリングに人生を懸けている一人。彼女と KUWATA CUP の決勝で戦えたことはすごく幸せだった。これからはファンの人に同期のライバルとして見てもらえるような関係になればいいなと思うし、そうならばボウリングだけでなく、お互いの人生も豊

かなものになる気がします」

今号が読者の手元に届くころ、都心の桜はすでに散り始めているだろうが、“大嶋桜”の見ごろは、きっとこれからだ。

取材協力: Red Rise24GYM

取材協力: Red Rise24GYM

大嶋プロと一緒に投げよう! 近日開催のチャレンジマッチ

- 4月15日 三重・オレンジボウリングイオンモール桑名店
- 4月16日 愛知・オレンジボウリングイオン豊川店
- ※with久保田彩花、堀井春花
- 4月17日 ラウンドワンLIVEチャレンジ
- ラウンドワン府中本町店(配信店舗)
- 4月22日 岐阜・コロナキャットボウル大垣店
- 4月23日 京都・アルプラザボウル
- 4月28日 埼玉・浦和スプリンググレース
- 4月29・30日 大阪・ボウリングアロー八尾店
- ※with尾上萌楓
- 5月3日 埼玉・ジョイナスボウル
- ※with寺下智香、小久保実希
- 5月6日 埼玉・浦和スプリンググレース
- 5月7日 東京・立川スターレーン

おおしま・ゆか / 1993年11月27日生まれ、埼玉県出身。165cm、左投げ。血液型B。2016年プロ入り(49期/ライセンスNo.545)。優勝2回、公認パーフェクト4回。22年度ポイントランキング9位、アベレージ206.17。P★League優勝1回(シーズン優勝1回)。フリー。



▲KUWATA CUP優勝時の大嶋。「スタンバイ中に超満員の客席を見たときは緊張したけれど、ゲーム中は自分たちに光が当たっていて周りは真っ暗。お客さんの顔が見えないのは安心材料でした(笑)」 (©KUWATA CUP実行委員会)

頼ったのは、埼玉県川口市でスポーツジムを営む元プロボクサーの叔父だ。

「以前から行きたいと思っていたのですが、家から遠くて通うのが大変で(笑)。でも、何かを変えなければ優勝はできな

フリー転向を機に成績上昇

かつて経験したことのない大舞台にも動じず、ピハインドの展開にも最後まで諦めずに見事5年ぶりの優勝を飾った大嶋だが、昨年後半には8大会中